

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 巧文



■ 謹賀新年



新年あけましておめでとうございます。みなさまにおかれては、輝かしい希望に満ちた新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、大手出版社が毎年発表する「住みよさランキング」で全国 790 市中、99 位（県下 3 位）に評価され、待望の 100 位を切りました。過去の順位の推移をみますと、年を重ねるごとにランクアップしています。これまで総合計画にいう「活力ある住み良さ創造都市」を本市の都市像として「住み良さ」をテーマに事業展開してきましたが、それらの積み重ねがこのような評価につながっているように思います。

今年は、大型建設事業である新市民病院や新ごみ処理施設、仮称・新有帆川大橋（県事業）の完成を迎えるほか、新たに厚狭地区複合施設の建設に着手します。また、防災・減災事業や高齢者・子育て世帯への支援、企業誘致や産学公連携による産業の活性化に取り組むとともに、昨年、県からモデル地区の採択を受けた「コンパクトシティ」の推進、さらに若者交流推進や観光・文化振興など、「活力と住み良さ」を

さらに実感できるまちづくりに全力で取り組みます。

どうか、みなさまのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

■ 山陽オート事業を継続します

山陽オート事業は、これまでの委託業者との契約更新が難しくなっていたため、今年 4 月からの事業継続が危ぶまれましたが、ぜい肉を徹底して削ぎ落とし経費削減に努めるとともに、本市も広報等で精一杯協力することなどを前提に、後継事業者として「日本写真判定株式会社」に山陽オート事業の運営を包括的に委託することにしました。

この会社は、すでに 3 か所の競輪場でトータルマネジメントを手がけており、実績も上げています。契約条件の詳細はこれからですが、とりあえず 4 月から山陽オート事業は継続します。

この 1 年間の心労を振り返り、すっかり忘れていた「天は自ら助くる者を助く」の格言を思い出しました。

